



練習を始めた当初は緊張して、手足を交互ではなく、同時に動かしてぎこちなく入場する姿がありました。うそのようですが、ほぼ毎年必ずいます。微笑ましいとも言えますが、本人は必死です。証書をもろう所作がわからず、自信のなさや迷いが動きに表れます。大人は経験値からだいたい動きを予測し、こうやればいいとわかるものですが、子どもは経験値が低いのでまず予測ができません。全体に説明しますが、一回の説明では全員には伝わりません。聞いてなかったり、説明を理解できてなかったりするからです。「一回しか言わないよ」と言ってもです。やって見せても一回では伝わりません。だからといって、子どもたちにやる気がないわけではありません。間違いなく全員が家族や周りの大人、後輩達に立派な姿を見せたい、見せるべきだと思っています。だから、私たちは何度も説明します。伝わるまで、できるまで説明します。説明と練習と叱咤激励を繰り返して、子どもたちは立派な態度、凛々しい動きを獲得していきます。

思春期に入っている子もいます。気持ちはありません。理解もしていません。しかし、心の中の何かが邪魔をします。その中で個別に指導されることもあります。だから面白くない気持ちにもなりますが、指導される理由を本音のところでは理解しているはずで、だから苦しいのだとも言えます。素直に行動に表せた方がよっぽど楽です。

六年生の姿を見ながら、「全員が一人残らず」立派な所作が出来たら、すばらしい返事が出来たら、大きく口を開けて歌声を響かせることが出来たら、すばらしいなと思う一方でちょっと気味が悪いなとも考えていました。しかし、全員の立派な姿をあくまで目指します。結果、百パーセントではなかったとしても子どもたちを責めることはできないですし、子どもたちにかっかり、

後輩に見られて気合いが入る6年生。表情が凛々しい!



あいさつ実態調査(再調査結果)

再調査を行いました。体感でもよくなりました。

- 正門・北門(北方面からの児童) 84.5%→86.4% 向上
 - 正門(南方面からの児童) 35.6%→52.4% 向上
 - 裏門(東方面からの児童) 67.8%→84.5% 向上
- いずれも向上中! まだまだ伸びしろがありますね!
それぞれが、人任せにしないことです。
一人一人の、「あなたの」あいさつを相手に届けて欲しいです。あなたのあいさつで元気づく人が必ずいます!

おじねんです! をじねんです!
ふたいあわせて
ねんねんずで一す!

ねんねんず再び

2月に6年生が催した「地域への感謝の会」でデビューした素人漫才師「ねんねんず」ですが、そのときの子どもの反応がわからず不完全燃焼だったため、新ネタでリベンジしました。

今回は皆喜んでくれたかな? と思います。ねんねんずからのメッセージが6年生に伝わっていたらいいなあと思います。

次はあるのでしょうか?!

することももちろんありません。こういう話の流れになると、今年の六年生の子どもたちは卒業式の練習がイマイチなのかなと思われるかもしれませんが、決してそうではありません。むしろ、途中で疲れが見られるほどです。

五年生との初めての合同練習の時、五年生の姿勢の良さにぶったまげました。一緒に卒業させてもいいんじゃないかと思うほどのビシッとした様子でした。「五年生は姿勢良いね」と声をかけると、それ以上伸びないであろう背筋をさらに伸ばそうとする姿に胸を打たれ、微笑ましくさえ感じます。気持ちの面での世代交代はもう完了しているのかもしれない。後輩のこうした姿はうれしいものです。

明後日の卒業式での子どもの姿が楽しみです。六年生の保護者の皆様と子どもたちの成長の喜びを分かち合いたいと思います。

熊本弁で「びしゃ一つとしとる」と言いたくなる5年生。凛々しかー!

